

# 山口と門司の旅

右城 猛

## 1. まえがき

5月2日(土)と3日(日), ゴールデンウィークの真っ只中なので, どこも大混雑すると予想されたが, 青梅島, 角島, それに下関と門司を一泊二日の日程で観光してきた。山口方面に決めたのは1週間前。インターネットのYahoo!トラベルサイト「たびゲーター」で幸いにも湯田温泉の「ホテルかめ福」を予約できたからである。



旅行先

## 2. わが家から仙崎へ

夜明け前の4時25分, 妻のカロラで自宅を出発。最初の観光予定地・下関を目的地としてカーナビゲーションに設定すると, 到着予想時刻は9時35分とでた。ちなみに, 走行速度は一般道を時速40キロ, 高速道路を時速100キロと設定してある。



朝日と飯野山 (5時45分)

5時になると周囲が少し明るくなってきた。高松道に入ってしばらく走ると, 前方に真っ赤に光る大きな朝日が飯野山(いいのやま)の裾野に見えてきた。飯野山の別名は讃岐富士。丸亀市と坂出市の境に位置している。

瀬戸中央自動車道を経由して, 6時には山陽道に入る。福山SAで朝食を兼ねて最初の休憩をとる。まだ7時になっていないのに, 駐車場は満車状態。座席シートを倒して車内で仮眠をとっているグループが目立つ。店内のフードコーナー, ショッピングコーナーとも客でごった返している。

福山までは順調に走れたが, だんだん自動車が増え, 渋滞の案内表示が見られるようになってきた。給油のために宮島SAに入る。女性用トイレは長蛇の列になっていた。宮島SAを出発したのは8時40分。

玖珂ICの手前で下り車線は大渋滞になる。9時30分から10時まではのろのろ運転。ほとんど進まない状況。最初は下関に行くつもりであったが, 渋滞で予定が3時間ほど遅れたので行き先を変更。美祢ICで高速道路を降りて青海島(おうみじま)へ行くことにした。

どこのサービスエリアやパーキングエリアも駐車場は満車。進入路には本線まで長蛇の列ができていた。



玖珂ICの手前で大渋滞

## 3. 観光遊覧船による青海島一周観光

12時5分に美祢ICを降り, 仙崎に向かって国道318号を北上する。12時45分に青海島観光遊

覧船の乗船場に到着。13時に臨時便が出るというので、急いで隣の土産物店でビールとサザエの壺焼き、竹輪を買い込んで乗船する。料金は一人2,200円。一周に要する時間は1時間20分。

青海島の周囲は約40キロメートル。島をつくる地質は火山から噴出された火山灰が地上や水中に堆積してできた凝灰岩。島の北岸は日本海の荒波を受けた浸食地形となっており、その奇岩の並び立つ様子は「海上アルプス」と称され、日本百景に選定されている。また国の名勝および天然記念物に指定されている。



青海島



夫婦洞



断崖絶壁の下には無数の洞門



最初に現れる奇岩が花津浦



船で観音洞を潜り抜ける



コウモリ洞



観音洞を抜けると天に向けてそそり立つ男性観音が現れる



象の鼻



十六羅漢



島見門。洞門の向こうに島が見える



仏岩



遊覧観光船

#### 4. 角島(つのしま)

仙崎から国道 191 号を西に走って角島に行く。この間の所要時間は約 30 分。

本島と角島とはコバルトブルーの海士ヶ瀬（あまがせ）によって隔てられていたが、2000 年（平成 12 年）に角島大橋で結ばれた。角島大橋は、橋長 1,780m，幅員 6.5m。構造形式は 21 径間連続 PC 箱桁+3 径間連続鋼床版箱桁+5 径間連続 PC 箱桁となっている。



山口の最西端に位置する角島



本島側から見た角島大橋



海士ヶ瀬公園から見た角島大橋



角島の瀬崎陽の公園（せさきあかりのこうえん）から見た角島大橋



島の最西端に立つ角島灯台は、高さ 29.6mの御影石でできた洋式灯台。「あなたが選ぶ日本の灯台 50 選」に選ばれている。



角島灯台の周囲は、角島灯台公園として整備されている。



白い砂浜とコバルトブルーの海は、沖縄の海を想像させる美しさであるが、砂浜にペットボトルや発泡スチロールなどの漂着物が多いのが残念。対岸の中国、韓国から漂流してきたのだろうか。

仙崎や角島では、イカ焼き、サザエの壺焼き、ウニなどの海鮮料理が安くて美味しい。仙崎で食べたサザエの壺焼きは 2 個で 500 円、イカ焼きも一匹 500 円であった。角島では、肉厚の大きなイカ焼きを 150 円から 200 円で売っていた。

15 時 20 分に角島を出発。国道 435 号を走って美祿インターから中国道に入る。小郡 IC で降りて湯田温泉の「ホテルかめ福」に着いたのは 18 時 30 分。このホテルには 2006 年 11 月に泊っており、2 度目。料理の美味しさに感動する。

## 5. 下関と門司

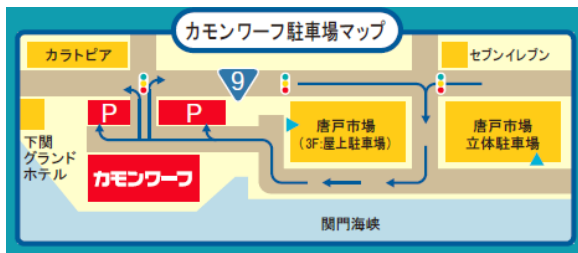
ホテルの朝食が 7 時からであったので、朝食を済ませて 7 時半に出発。小郡 IC から中国道に入り下関 IC で降りる。9 時前には下関の唐戸(からと)に到着する。

唐戸市場駐車場に入る交差点には国道 9 号線の東側と西側それに北側の市道の 3 方向から自動車流れ込んで大渋滞になっていた。東からの車

は左折なのでどんどん入るが、私たちは西からであったので右折がなかなかできなかった。妻の強引な運転でどうにか右折して駐車場への進入路に入ることができた。

唐戸市場駐車場には、唐戸市場立体駐車場と唐戸市場3階屋上駐車場がある。係員に3階屋上駐車場の方へ誘導されたが、その駐車場はすでに満車であり、カモンワーフの駐車場に駐車するように指示された。

もう少し遅れると、駐車ができなくなるところであった。やはり朝は早くないといけない。



唐戸市場周辺



唐戸市場



唐戸市場内は観光客で賑わっている(9時30分)



ホテルで朝食を食べていたが「にぎり寿司」は別腹。大トロが300円。とても美味しい。

唐戸市場は昭和8年(1933)に開業。業者相手の卸売と、一般消費者相手の小売を行う市場として市民や観光客に親しまれている。2001年に『唐戸地区ウォーターフロント』の核施設として、隣接するカモンワーフと共に新たに整備されている。



カモンワーフの海側のデッキと関門大橋。カモンワーフは、食べて・遊んで・海を感じることができる関門海峡の新名所。唐戸市場と海響館の間に位置する3階建の館内には、各種レストランや居酒屋、土産物店などが立ち並ぶ。

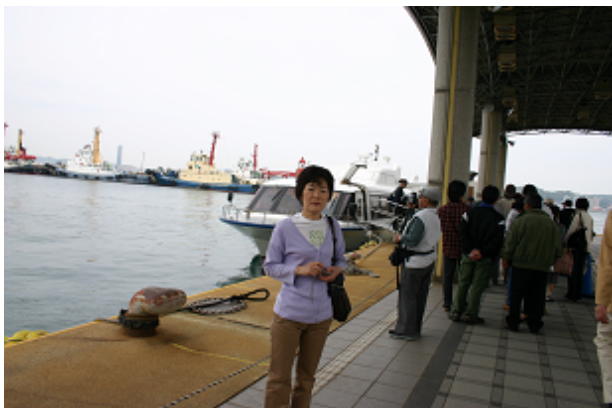
対岸の門司では、「第14回門司港レトロフェスタ」が開催されている。カモンワークに隣接した唐戸棧橋から、「関門連絡船」に乗って門司に行く。所要時間はわずか5分。今日は特別かも知れないが、二隻の高速艇がピストン運行していた。

門司は、かつて国際貿易港として栄えた港町。当時の面影を偲ばせる古い街並みと、新しい都市機能をミックスさせた観光地。

10時から2時間、門司港のレトロ地域を観光する。



門司港のレトロ地域



門司の関門連絡船乗り場



門司港駅。大正3年(1914)に旧門司駅として開業。ネオ・ルネッサンス様式で木造建築の駅舎。

昭和63年に鉄道駅舎では初の国の重要文化財に指定されている。



門司港駅は現在もJR駅として利用されている。駅舎内部は、建設当時の雰囲気をもつため看板などに工夫がされている。



三井物産の社交倶楽部として大正10年に建築されたものを、平成3年に移築・復元。JR門司港駅と同じく国の重要文化財。1階にはレストラン、2階には展示コーナーなどがある。



背後の海は第1船だまり。左端の建物は門司港ホテル。その右が「恋人の聖地」と言われる跳ね橋。中央の建物が港ハウス。右端は高層マンション「レトロハイマート」



帝政ロシアが中国（大連）に建築した東清鉄道オフィスを、北九州市と大連市の友好都市締結 15 周年を記念して複製建築したもの。1 階は中華料理のレストランとなっている。



背後の建物は旧門司三井倶楽部



高層マンション「レトロハイマート」の 31 階にある「門司港レトロ展望室」からの展望。  
手前の建物は、旧門司税関。第 1 船だまりを隔てた向かいの近代的な建物は門司港ホテル。右側には「跳ね橋」が見える。

関門橋は、山口県下関市と福岡県北九州市門司区の間に関門海峡を跨ぐ吊り橋。橋長 1068m。最大支間は 712m。完成した 1973 年当時はそれまでの若戸大橋を抜いて東洋一の長大吊橋であった。



長は 780m。歩道入口までエレベーターが設置され、徒歩 10 分～15 分で本州と九州を往来することができる。



ノーフォーク広場。妹都市の米国バージニア州ノーフォーク市にちなんで付けられた名前。関門橋のビュー・スポットとして人気の場所。



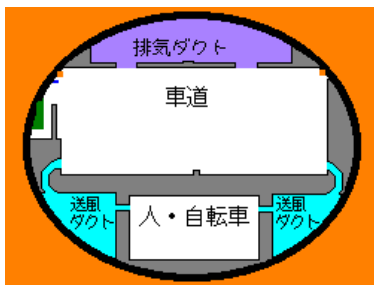
黒川紀章が設計した高層マンション「レトロハイマート」。31 階が「門司港レトロ展望室」。



門司港レトロ観光列車「潮風号」。JR 門司港駅の改札を右側に出たところにある九州鉄道記念館駅から関門海峡めかり駅までの 2.1 キロメートル間を運行している。



関門国道トンネル人道の門司側入口



関門国道トンネルの断面

関門海峡には、2 本の鉄道トンネル、新幹線トンネル、車道と人道が二層構造になった国道トンネルの 4 本が通っている。国道トンネル人道の全



「ブルーウィング」。橋長 108.1m の跳開式可動橋の歩道橋。船を通すために 1 日に 6 回跳ね上がる。



下関では「第 24 回しものせき海峡まつり」が開催され、メインの 5 月 3 日には源平まつり、源平武者行列、源平船合戦、八丁浜総踊りなどが行われることになっていた。

12 時 30 分、下関に引き返し、カモンワープの 3 階に上がり、そこから「八丁浜総踊り」を見物する。

「八丁浜総踊り」とは、人柱となって唐戸発展の礎となった「お亀さん」の功績を称え、約 1,000 人の踊り手が、「しゃもじ」を両手に持って「八丁浜えらやっちゃ」と掛け声をかけながら賑やかに踊る踊りである。

町内会や、企業、趣味仲間がチームをつくり、順番に次々と衣装と踊り披露する。阿波踊りにも似ているし、「しゃもじ」を「鳴子」に持ち替えれば「鳴子踊り」にもなりそう。「阿波踊り」や「鳴子踊り」のように洗練された踊りになっていないというのが正直な印象。

メイン会場の「姉妹都市ひろば」では、「源平弓合戦」の準備がしていた。単なる素人の遊びのようである。見る価値がないと思えたのでさっさと会場を去った。



カモンワープ前で行われていた八丁浜総踊り



源平弓合戦の準備をしているところ

昼食は、唐戸市場で「にぎり寿司」、「ふぐの刺身」、「ふぐ汁」、「ふぐの唐揚げ」、「サザエの壺焼き」を買って、市場の外の路面に座ってビールを飲みながら食べる。

下関と門司は関門海峡で隔てられているが、二つのエリアが上手く連携し、お互いの良いところを出し合って魅力的な観光ゾーンを形成している。上手く考えている。素晴らしい。

## 7. あとがき

帰りが遅くなると渋滞に巻き込まれる恐れがある。市場で「ふぐ」と「イカ」を買い込み早々に帰路につくことにした。13 時 50 分に下関 IC から中国自動車道に乗る。自宅までの距離は 487 キロメートル。カーナビの到着予想時刻は 19 時。

途中、下松 SA で土産物を買って給油、篠坂 PA でトイレ休憩をただけ。ずっと妻が運転し続けて自宅まで帰る。帰り着いたのは 19 時 50 分。

上り車線では、山陽道の倉敷 JC と岡山 JC の間、瀬戸中央道の倉敷 JC に入る手前、高知道の川之江 JC の手前で渋滞が見られたが、私たちは渋滞に遭遇することなく、快適に走ることができた。

南国 IC のゲートの手前で、カーナビから「通行料金は 9800 円です」というアナウンスがあったが、ETC のゲートを通ると「通行料金は 1000 円です」とのアナウンス。瀬戸中央自動車道の通行料金を加えると、通常ならば片道 13,900 円かかるところを 2,000 円で済んだ。高速道路料金の割引サービスの効果である。

高速道路の千円効果で、今年のゴールデンウィークの人出は、過去最高を記録するだろう。

(平成 21 年 5 月 4 日記)